

刊夕六九廿月五



定額一圓五角... 發行所 常磐毎日新聞社

佛道とは何ぞや

眞繼 雲山

地上において本統に悟りを開かれたのは釋尊御一人であつたとも考へられるが...

軸の展開に外ならない。釋尊が廿九歳にして入山せられたのは上求であり、卅五歳成道して山を出られたのは下化の道を辿られたのである。

淨土門において安心といふことをいふが安心とは上を向いて自分の安心を求むることであるも安心だけでは本統の安心は得られず...

清居禪師の『十牛の教へ』に『凡情脱落して聖意皆空』とあるのは上求の頂邊を示したものであり、しかも上を向いてゐるだけでは何んにもならぬぞとて『瓢を提げて市に入り杖を策いて家に還る、酒肆魚行を化して成佛せしむ』といへるは酒屋魚屋の破戒道をまでも化して成佛せしめよといふ下化のドンドコを示されたものである。

斯やうに佛教には上求下化との二門がある。理としては自分が悟つてから他を救へよ自ら悟らざるは他を覺らせる資格なしといふことにもなるが、實際問題としては菩薩となるにすら三祇百劫の長歳日を要し、われ凡夫が悟り得てのち他を救ふなどいふことは恰も二等兵が大将になつたら忠義を盡くそうといふにひとしく前途遙遠、殆んど出来ぬ相談であるから、二等兵は一等兵に進みつゝ、國家に御奉公を勵むべきであるやうに、私たち凡夫は上を向いて悟りを求めつゝ、同時に下を向いて衆生のため社會

のために盡くさねばならぬ。同時同處に歩みゆく人がその上求菩提と下化衆生との二つの道を一改せしめての佛道である。(完)

是非御利用を 營業時間午後九時迄

平町四丁目河岸通り 三井質店 電話六〇六番

咽喉專門

平町田町七〇番地 山内醫院 醫學士 山内亨吉 電話六九一

旭硝子株式會社製品 板ガラス

製造賣販 硝子食器 其他各種

松崎硝子製作所 平町新川町(電話一四二番) 支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)

耳鼻咽喉科專門

氣管食道科

大和田醫院 平南町(電話一七〇番)



町會議員候補者 川崎文治君

原籍 平町字長橋町三五 住所 同上 生年 明治廿八年十一月廿五日 學歷 平津高等小學校高等科卒業 中央商業學校卒業 中央大學經濟科中途 國語傳習所修了 職業 常磐毎日新聞社社長 常磐毎日印刷株式會社社長 賞罰 ナシ

推薦狀

拜啓 時下新緑の候貴臺益々御清榮の段奉慶賀候。陳者今町會議員候補者として川崎文治君を最適任者と認め必勝を期して擁立致し候に就いては何卒川君が最大多數の榮冠を擔つて當選相叶候様絶大の御援助賜り度く此段伏して奉懇願候。 敬具 昭和八年五月

平町第一區(新町) 推薦者有志 川角兼吉外一同

御挨拶

是非なく押されて出馬致しましたが願ひますれば淺學非才其器に足らざるを遺憾とする點多く汗顏の至りに耐えませぬ。而し一度立候補を決意致しました以上、自分の所信を町政の上に披瀝して『住みよい平町、明るい郷土』たらしめ度い願望が胸中に満ち溢れて居ります。どうぞ私を勝たせて下さい。私は郷土平町の爲めに根限り働く覺悟と決心を持って居ります。私は貴下の町政に對する御意見を取次ぐ忠實な公僕である考ひを忘れませぬ。財政難の平町が今後に添ふ熱意を有して居ります。財政難の平町が今後爲すべき多くの都市計劃を持つて居る事を懐ふ時、老軀を提げて晝夜の別なく健闘して居られる青沼町長の誠意誠心に感激し、自分の不敏をも願はず立候補を決心しました。どうぞ私が町會に一箇の議席を占めて働く事の出来る様絶大なる御援助を衷心より御願ひ致して止みませぬ。先づは立候補の御挨拶を申し上げ、貴下の御聲援を切望致します。 昭和八年五月

愈々審判の裁決

榮冠は果して何人に?

平町會選舉はいよいよ明三十日午前六時から執行される筈で當落の運命既に決されんとしてゐるが最後の桂冠をねらう三十七候補の顔振れ左の如くである

氏名	年齢	職業	選舉事務長
馬目 雅治	(三八)	新聞記者	草野金太郎
櫻井 清	(四八)	商業	同人
吉田寅之輔	(四六)	上繪業	影山 萬吉
小野伊佐治	(七〇)	質屋	梅原利三郎
吉田 金作	(五一)	無職	鈴木 廣吉
關内 正一	(三七)	商業	柏原 新吾
花澤久一郎	(五五)	米穀商	星野 甚七
多田井笑次郎	(二九)	質屋	石川重太郎
井上 茂作	(六七)	會社員	鈴木長三郎
佐藤岩次郎	(五九)	商業	本人
野崎 滿藏	(五三)	自動車業	小齊 五郎
酒井 清	(四一)	旅館業	中島 孟
猪狩 觀德	(四六)	鐵道員	本人
吉村安次郎	(四六)	綿業	屋島 廉輔
佐々木龍若	(五三)	商業	有賀幸太郎
石山治三郎	(五四)	建具商	阿部 太平
大和田與兵衛	(四七)	印刷業	本人
鈴木 光吉	(六一)	雜貨商	阿部 治作
萩原 義雄	(四六)	齒科醫	本人
小松 茂	(三六)	酒商	本人
齊藤 寅吉	(六八)	吳服商	大森 勇
吉田 五平	(五六)	無職	本人
松崎長太郎	(五二)	荒物商	藁谷喜太郎
馬目武之助	(四七)	染物業	丹野周一郎
會川延太郎	(五三)	醬油業	永山藤太郎
坂本 隆藏	(五七)	紙商	渡邊 貫一
川崎 文治	(三九)	新聞記者	川角 兼吉
新井 滋藏	(五一)	農業	鈴木 房吉
高橋 龜松	(五四)	石炭業	宮崎善太郎
堀 喜一	(四五)	書店	吉田 弘
佐藤幸太郎	(三六)	米穀商	丹野久五郎
荒川淺次郎	(五)	家具商	本人

道路河川工事

請負人札執行

平土木監督所では来る卅一日午前十時より災害復舊工事としての勿來町地内國道改修藤原川河口改修兩工事の入札を執行する

根本 品藏	(四八)	米穀商	久田 太平
綠川喜三郎	(四三)	鋸製造業	武田元之助
齊藤 角治	(五六)	新聞記者	佐藤 市助
永山 富廣	(四七)	材木商	本人
丸山 春藏	(五〇)	土工	本人

資格實數四〇五五

平町の入場券交付終る

明卅日午前六時から行はれる平町會議員選舉の有資格者は町役場で再三調査の上入場券を配布したが名簿登録數と死亡轉出その他失格を控除した入場券の交付數左の如くである

町名	登録數	交付數
長橋町	一六四	一五一
研古銀	二四〇	二二一
紺屋町	一七〇	一五六
田町	一九五	一八四
一丁目	一〇三	九七
二丁目	一一三	一〇二
三丁目	一〇一	九五
四丁目	九七	九一
五丁目	一〇八	一〇一
新川町	一八〇	一六八
材木町	一八二	一七三
鍛冶町	一一一	一一八
南町	四二三	三九七
久保町	一二九	一二四
胡摩澤	一四三	一三五
北白銀	一四三	一三八
仲間町	二四九	二三三
鎌田町	二〇九	二〇六

郡教育部會總會

勤績者表彰意見發表

既報石城教育部會總會は昨日午前十時より平第一小學校講堂に於て開催出席者四百餘名にて決算報告豫算及び教育會館建設奇附取扱ひの件を協議し後文部省社會教育官水野常吉氏の『非常時局の認識』と題する講演あつて左記五ヶ年無欠勤教員の表彰並に會員の意見發表等があり頗る盛會であつた

- △五ヶ年無欠勤者
- 平坂内伊貞 江名遠藤菊次郎 入遠野平子國貞 錦北原操 同園部一己

高久村匡救

増額を陳情

石城郡高久村では本年度匡救事業として村内六ヶ所の道路改修を工費一萬六千餘圓にて行ふべく申請した處縣當局は右のうち三ヶ所工費四千九百餘圓を割當た結果全然匡救事業を割當られぬ部落民は村長鈴木喜太郎氏と共に本日鈴木代議士の紹介で小林平土木監督所長に陳情する處があつた

舊城跡	一八六	一七五
八幡小路	六七	六一
月見町	一二六	一三〇
北目町	六三	五九
鈴道官	六五	五六
計	四三三	四〇九

南無妙法蓮華經

不肖拙老敬んで 合掌

今回改選せらるゝ平町會議員候補者中左記の人々に對し拙老は滿腔の誠意を捧げて合掌なし、其人々により平町政刷新の爲靈前に懇へて當選を願ふものなり。則ち次の諸士等の一心以て我大平町の改造と建設へ、大なる自己の本分を怡すこと、是れ男子の本分にあらずや!!

合掌

- 共濟會員 (席順不同)
- 井上 茂作 野崎 滿藏
 - 萩原 義雄 齊藤 寅吉
 - 川崎 文治 鈴木 光吉
 - 猪狩 觀德 佐藤岩次郎
 - 多田井笑次郎 吉村安次郎
 - 馬目 雅治 花澤久一郎
 - 坂本 隆藏 馬目武之助
 - 松崎長太郎 小野伊佐治
 - 根本 品藏 關内 正一
 - 佐々木龍若 堀 喜一
 - 酒井 清 高橋 龜松
 - 吉田 五平 荒川淺次郎
 - 石山清三郎 大和田與兵衛
 - 櫻井 清 小松 茂

右の人々は平町の爲、百年の大計と町民の幸福の爲、奮つて自己を犠牲にして、建言、運動等、其實行を期する人格崇高の人々である。諸志に是等人々の最高點を以て當選あらんことを齋戒沐浴して靈前に誓ふ!!

合掌

南無妙法蓮華經

平町南町四番地 賀澤 忠治

きのう小名濱へ かつを九千本

本縣最初の水揚げ 濱は一齊に活況

石城郡小名濱港に去る廿七日午前中入港した紀州尾鷲港の勇勝丸は七八百匁平均の鰯五千本を水揚げし引續いて勝丸三千本、徳島縣天祐丸一千本合計九千本を水揚げしたが本縣最初の水揚げに忽ち賣盡されたが相場は八掛で比較的安値を見たのは江名町佐藤清八氏所有清勝丸はびん長鰯千二百本を漁獲して三崎港に入港また同町風間萬五郎氏所有萬勢丸は鰯六千本を積んで銚子港に入った旨の通知が同日漁業組合にある等濱は非常な活気に包まれて居る

剣道大會

平商校好續

平商業學校剣道部にては昨日午前十時より入山小學校に於て開かれた入山炭礦剣道部主催の郡下剣道大會に山田定、草野忠悟、郡司重雄、齊藤一夫、長谷川武士、山田正直、若松一郎、大高正己の八名出場したが参加選手六十餘名中個人三本勝負には六勝一敗一引分と言ふ好成績を挙げ高次者試合は草野忠悟君が四等に入賞したと

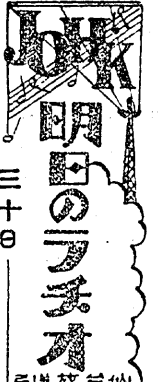
係官も舌を捲く

二人少年の盗み

公判はあす開廷

既報去る十七日綴驛事務室より同驛長淺川虎彦保管に係る上野驛迄の二等乗車券一枚及び夜ノ森龍田驛迄の三等乗車券一枚並に現金十五錢を窃取し平署に檢舉された石城郡内郷村高坂字中平十七番地四家辰吉(ハ)同所十三番地鈴木敷夫(ハ)いづれも假名一の兩名に就いては其後引續き嚴重取調べ中の處餘罪全部を自白したので本日送検明三十日午前九時より平區裁判所に於て竹内判事係り小林檢事立會の下に公判開廷される事になったが今日まで自白した犯罪は左の如く係官も舌を捲いてゐる
平町七軒町上川恒平黒ズ

ボン一着外 点價格十六圓
舊城跡鈴木勝治中古自轉車一臺價格十三圓
田町大塚運動具店自轉車一臺價格四十五圓
三丁目大黒屋夏ンヤツ一着外五點價格八圓五十錢
あや洋服店ラシヤ外套一枚外三點價格二十圓
大町牧野文成自轉車一臺價格二十圓
八幡小路大場辰男金腕時計計外衣類等價格十五圓及び現金十三圓
二丁目坂本寅三手提蓄音機一臺價格八十圓
三丁目天地堂同蓄音機一臺及びサンボックス二個價格百圓
湯本町高脇與太郎金腕時計價格十圓及び現金二圓在中の墓口 同町永島喜一タロー



今夜は北西の風晴
明日は北東の風晴
雲半す

今晚の部

後六、〇〇 (子供の時間)
「兒童劇」能本城から能本蒼穹コードモサークル指揮 高木唱男 管絃樂伴奏
後六、二五 英語講座三の三 石川林太郎
後八、〇〇 獨唱と管絃樂

明日の部

前六、三〇 基礎ドイツ語講座(二二) 橋本忠夫
前九、一〇 料理献立「小海老のグラタン」 朝倉長吉發表
前一〇、三〇 家庭講座「洋服縫製見分け方」 柴田武治
後〇、〇五 ラジオ風景「善光寺参拜」 信州善光寺山内有志
後二、〇〇 家庭大學講座 芦田均
後六、〇〇 子供の時間 童話劇「なんでも食べよ」

學校荒しの政へ

けふ懲役六月判決

山形縣東置賜郡生れ目下住居不定齊藤政之助(三)が去る五日磐城中學校より所有者不詳の黒革短靴一足價四圓を窃取したる外平第三、四倉、好間、神谷、久之濱、原ノ町各小學校より手當り次第に現金或は運動具書籍類等を窃盗した事件の公判は本日午前九時より平區裁判所に於て關口判事係り三堀檢事立會の下に開廷され懲役六月を言渡された

村議當選者

既報石城郡上下小川村組合の村會議員選舉は昨廿八日執行されたが開票の結果左の如く決定した

上下小川村	國井 勝丸
三六	高木 藤嗣
三四	長谷川松良
同	草野 茂
同	草野淺右衛門
同	草野 正壽
二九	菅波 梅吉
二七	

徒歩で二本松へ

憐れ眼疾の男

警察へ施療の願出て

石城郡赤井村大字鹽字南十居住農平塚朝次郎(三)は本月上旬より悪性の眼病に冒かされたが生活難に追はれて治療も出来ずに居たが二本松町野地眼科病院では警察署の證明書があれば無料診療をして呉れると聞かされたので去る廿六日赤井村を出發廿餘里の山道を徒歩

發育順調

出廻來月中旬

石城郡下春蠶は目下四眠中にあるが氣温の關係で掃立

打合せ會

小林所長出席

石城郡菊田方部勿來、田人川部上遠野、山田、植田、各町村長及び土木主任の匡救事業打合せ會は去る廿七日午後一時より勿來町役場會議室に於いて行はれ小林平土木監督所長より本年度匡救事業に就いての詳細なる注意後匡救事業は各村共大體七月上旬に着工して十二月終り賃金は男六十錢女四十錢位とする事及び町村土木委員の全廢等を協議した

豪傑剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫
上田馬之助

鳥の腕前を見ろ
上田馬之助は盃洗に注が
せた酒を一口に飲み干し左
藤、青山、前田の三人の前
へズバリと突き付け
馬「各々もこれにて過し給
へ、拙者がお酌をいたす」
との勢に毒氣を抜かれて
三人が顔と顔を見合はせ
青「これはえらい豪傑だ如
何にも其飲む様の美事なる
こと長鯨の百川を吸ふが如
しとでも申すか感心々々」
馬「左程迄に賞美いたすあ
らば貴公も飲み給へ、被ひ
給へ清め給へかな、何うだ
これから品川へ繰り出すか
な、遊びに行けばとて女子
に愛される様な風采ではな
いな、各々方は淺黄裏だな」
青「何んだ淺黄裏とは」
馬「それは勤番侍のことを
申す、表類の裏は淺黄木綿
ゴツ／＼した石の如き衣服
を着用いたして居る田舎侍
それで廓などでは淺黄裏と
申すアハ、……」

と笑つたが上田も此時は
大分酔つて居る。此奴等の
荒唐を挫いて此處を引き揚
げ様、下から出て居れば此
奴らは付け上つて此處より
戻すまいと思ひそこで今度
は反對に此方から喧嘩

りかけた、すると三人も一
時上田の勢におどろいて静
かになつた、しめた此の間
に立ち退かうと女中を呼ん
で勘定をして
馬「拙者もこれにて御免を
蒙る」



立上つた時に三人は上田
の行手をふさぎ
大「さてさて、コレ驚
貴様の主人の持槍には黒羅
紗で蔭の様な形をした覆を
かけてあるそれ故とんび細
川と云ふ、驚の家来ならば
貴様は鳥だ、我々を何と心

得て居る、出羽村山郡天童
にて二萬石を領する織田伊
勢守の譜代の臣にて佐藤大
學、青山庄司、前田勘之助
だ」
馬「先刻姓名は承り居る」
大「さうか、さあ驚の家来
の鳥の腕前を見たい、嘴は
鋭いが毛爪はきくまい、酒
宴の興に劍の舞を見せてや
る、勝負をしろ」
刀の柄に手をかけた、こ
れを見て此處に居た客はび
つくりして
○「遂々初まりますね、全
体あの三人がよくない、何

うも田舎者は禮儀を知りま
せん、無法なことばかり云
ひます、しかし此處でチャ
ン／＼バラバラやられては
堪まらねえ、今の中に引き
揚げるが無事ですよ、オイ
姐さん勘定しておくれ」
女「有がたうございませ
△「オイ姐さん勘定してお

くれ」
○「オイ姐さん、勘定だ勘
定だ」
此の廣間に居た四五十人
の客が勘定するとの一齊射
撃に女はめんくらひ
女「ちよつとおたつさん、
おうのさん、みいちやん、
おとりさん」
などと十二支の様な女を
呼んで手分けして勘定を取
る
○「早くしてくれ、早くし
てくれ、大變だ、愈始ま
るぞ、今流行の劍劇の幕が
あくぞ、オ、勘定だ勘定だ
イ、ホラ宜いか残りはお前
にやる、べらぼうめ江戸つ
子だ二朱や一分の勘定で小
錢のつりを持つて行くこと
は出来ねえ、きあ二朱なら
残るだらう」
女「二百文不足でございま
す」
○「さうか、まあ宜いや仕
方がねえそれはお前にやる
よ」
と云ひましたが無い物を
與へるとは行き届いた事で
客は此家に居るは危険とあ
わて、出て行く、其處へ帳
場に居た番頭が出て来て
番「何卒お静かに願ひます
何う云ふことがお氣に障つ
たか存じませんが、まあ穩
やかにして頂きたい物でござ
いませ」
と云はれて上田は
馬「イヤ俺の方で事を起し
た譯ではない、先方で酔つ
てゐるからイヤ何うも絡ん
で来て困る」
番「左様でございませるか
は笑つて頂きたい物でござ

います」
と云ふと佐藤大學が
大「控へろ、驚の家来鳥武
士の毛爪の力を見てやる貴
様達の知つた事ではない、
ヤイ鳥此處から飛び去らん
としても逃すことはならぬ
ぞ、我々三名が取り巻きし
上はモチ綱にかかりし小鳥
同様、羽ばたきもさせぬぞ
さあ覺悟しろ」
じり／＼と詰め寄る、上
田はこれを見てこれはとて
も無難で此處を引揚げる事
はなるまい、此上は此奴等
を斬つてくれ様ときつと決
心した。

淋病

腸虫病

梅毒

皮膚病
婦人病

門專

院醫科 腸性病性 村松

七〇一話電町南平

看護婦急派

の求めに應

じます

平町南町

平看護婦會

電話三〇七番

平町會議員候補者

セキウチシヨウイチ

關内正一君を推薦す

推薦者 平町二丁目

鈴木堅助	田卷酒之助	三井文吉	石川友次郎	丹野榮次郎	關内慶次郎	坂田藤助	長瀬延太郎	里見金太郎	責任者平町二丁目十三番地 丹野榮三郎
------	-------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	--------------------

來る三十日執行せらるべき町會議員選舉に際し磐陽
野球界の恩人 **吉田金作氏** には舊城跡、八
幡小路兩區民の熱誠なる推薦により遂鹿戰場に出馬
決意致され候

御承知の如く同氏は三十餘年我海運界に身を置き日
本郵船會社の名船長として東西兩半球の貿易港に足
を印せざるなき國際人たるのみならず殊に歐洲大戰
當時はコレヤ丸船長として獨乙エムデン號の慘禍に
おびゆる歐洲航路に幾度の航行を重ね何等禍も無き
を得たる剛膽の人士に御座候

今や功なり名遂げ悠々故山に自適する境涯にありな
がら郷土愛に燃ゆる同氏が磐陽野球界向上の爲に貢
獻せる功績は吾等フアン一同の感激する所に御座候
如斯大陸的な氣宇と眞摯なる信念を持つ純情の郷土
人こそは町會の淨化を計る最適任者と信じ推舉する
ものに候日進歩発展の途上に在る平町政刷新の爲
め又磐陽野球界向上の爲めにも實に重大なる意義を
有する事なれば御賢察被成下大多數を以つて當選の
榮冠を得せしめらるゝ様御援助賜り度懇望する次第
に御座候

昭和八年五月

磐陽野球後援會有志

阿部政右衛門	新田目春松	柴田友次郎	石川友次郎	井坂久吉	熊坂次郎	高木忠三郎	外幹事 一岡	責任者福島縣平町長橋町七 高木忠三郎
--------	-------	-------	-------	------	------	-------	--------	--------------------